

平成 29 年度学校教育自己診断 まとめ

生徒

1. 全般

○はじめに

- ・今年度からの新しい質問項目や、質問の仕方を変えたものがある。
- ・過去の質問と趣旨が似ているものに関しては、昨年までの経年比較に継続して分析する。
- ・資料中の数値は、小数点以下は四捨五入して記載するものとする。

○分析

「学校へ行くのは楽しい」（設問 1）に対する肯定感は、ここ数年実施するごとに上昇していたが、今年は低下して 65% となり、5% の減少となった。今年から質問項目としてあげた「行事（体育祭や文化祭は楽しい）」（設問 15）に対する肯定感は 73% であり、「授業がわかりやすい」（設問 18）の肯定感が 53% という結果がある。これらから見えてくるものは、行事を中心とした学校生活の取り組みは十分満足のいくものではあるが、日常生活の大半を過ごす「授業」において、不安・不満・苦手意識があるという現状である。

○課題

何をおいても、「厳しさの中にも温かさを持った生徒指導」「落ち着いて安心して授業を受けられる学校」が根幹にある。これらを基盤にしつつ、いかに毎日の多くの時間を過ごす「授業」において改善を行っていくことができるかが、魅力のある学校づくりにつながる鍵である。

2. 生徒指導・進路指導

○分析

「学校生活について先生の指導は納得できる」（設問 4）は肯定感が 49% で、昨年度より 1% 改善されている。「先生は（去年までは「学校は」）生徒の意見をよく聞いてくれる」（設問 6）の肯定感は 63% で、肯定感が上回った。生徒の意見を聞くことができているが、指導に関しては納得できていない生徒が半数いる。生徒が納得できる話し方をしていく必要がある。

「進路についての情報を知る機会や場所がある（去年までは「ホームルームなどで将来の進路や生き方について考える機会がある）」（設問 12）肯定感 76%、「充実した指導が行われている（去年までは「学校は進路についての情報をよく知らせてくれる）」（設問 14）肯定感 58% と進路に関する項目については、高い値で年々上昇している上、否定感も少ない。個々の生徒に対して、きめ細かく指導する体制が充実してきたものとする。

○課題

生徒指導に関しては、常に「これで良かったのか」「もっといい方法は無かったか」と吟味・改善していく必要がある。一方で、その場では理解できなくても、生徒個人や学校全体にとって必要な指導があるケースもある。

ねばり強く全教員が協力して、何が良くて何が良くないことかを理解させる必要がある。

3. 相談体制・人権教育

○分析

「いじめやもめごとなど、先生は色々な問題を見逃さずに対応してくれる」（設問 8）は、肯定感が 48% で、昨年度よりも 11% の上昇で、近年上昇が著しい。「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」（設問 9）の肯定感は昨年より 2% 上昇し 54% となっている。

担任や学年、また顧問の先生全員が、生徒の様子を細かく観察し、会話が密にできているという

ことではないだろうか。「命の大切さや社会のルールについて、学んだり考えたりする機会がある（去年までは「人権の大切さについて考える機会が多い）」（設問 17）は、肯定感（67%）が昨年に比べて17%上昇しているので、取り組みの成果が出てきていると考えられる。

○課題

丁寧に生徒観察を行い、常に教職員に見守られている、という状況を作っていく必要がある。

生徒一人ひとりとの関係性を築くことに重点をおく必要性も感じられる。

また人権に関しては、生徒が身近に感じる可以选择しとり入れることで、より考えやすくなり、結果もでてくると考えられる。

4. HR活動

○分析

「ホームルーム活動は活発で、クラス全体で積極的に関わっている」（設問 16）は肯定感60%となっている。昨年度より6%増加し、年々上昇傾向にある。生徒会行事が充実し、生徒の満足感も高くなってきていると思われる。

○課題

ホームルーム活動については、生徒会行事に積極的な様子がある一方で、否定感のある生徒がまだいることも事実である。各クラスで生徒主体の活動を意識し、様々な生徒を巻き込んで取り組む必要がある。

保護者

○分析

「子どもは、学校へ行くのが楽しいようだ」（設問 1）は72%で、昨年の76%より4%減少している。これは生徒のアンケートデータとも一致している。「子どもは、学校の授業がわかりやすく楽しいと言っている（去年までは「子どもは学校の授業がわかりやすいようだ）」は43%で、生徒よりも低い水準になっている。「学校は将来の進路や職業などについての情報を知らせてくれる」は69%あり、進路選択について高い満足感がみられる。

○課題

保護者の結果と生徒の結果はほとんど同じであり、家庭内で学校に関するコミュニケーションがとられていることがうかがえる。保護者に十分な情報提供の機会を設けるとともに、第一に生徒への適切な課題認識の上に対策をとることが重要である。

教職員

○分析

「いじめ（疑いを含む）が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができる」（設問 9）では80%が肯定的な回答をしており、「生徒一人ひとりが興味・関心・適正に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている」（設問 11）では78%が肯定的な答えをしている。同様の趣旨の質問に対する生徒の数値と概ね一致した回答がみられる。

○課題

保護者と同じく、生徒と教職員の捉え方は似ている。概ね、保護者・生徒・教職員の感じ方は近いのではないかとすれば、生徒の受け止めている課題の解決に向けて支援できる方法を様々な立場で計画・実行していくことが重要である。